

## 調査結果資料 1 (福岡市障がい児・者等実態調査報告書 P84)

## 自宅や地域で生活するために必要なこと〔身体・者〕

【図表4-91 年齢詳細別、手帳等級別 自宅や地域で生活するために必要なこと】(%)

	調査数(人)	自宅や地域で生活するために必要なこと									
		が主 近治 く医 にあ るや 医療 機関	るい こを と頼 め る 人 が い る	な事 や掃 除、 洗濯	こ家 族と 同居 でき る	こ機 関が 近 く に あ る	どス ーパ ーや 銀行 など	る昼 間の 介護 を頼 める	る夜 間の 介護 を頼 める	こ時 に宿 泊で きる ところ がある	短期 入所 など 緊急 時
全 体	849	36.8	33.1	27.2	24.5	16.7	15.3	12.7	11.2		
年 齢 詳 細	20歳代以下	21	32.9	15.8	19.7	19.7	14.5	21.1	26.3	36.8	
	30歳代	29	31.8	15.3	30.6	25.9	9.4	8.2	22.4	48.2	
	40歳代	49	36.4	28.6	35.1	37.7	6.5	5.2	9.1	46.8	
	50歳代	88	43.0	30.4	27.8	40.5	8.9	8.9	6.3	32.9	
	60～64歳	90	36.8	33.3	23.0	26.4	13.8	11.5	12.6	13.8	
	65～74歳	100	37.4	38.0	28.8	20.2	16.6	12.9	11.0	6.1	
	75歳以上	472	36.0	34.9	26.9	20.7	20.4	18.9	13.5	0.7	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
全 体	849	36.8	33.1	27.2	24.5	16.7	15.3	12.7	11.2		
手 帳 等 級	重度(1・2級)	437	34.1	35.1	24.5	21.3	21.8	18.8	12.9	8.9	
	中度(3・4級)	297	42.9	30.4	33.3	30.6	11.5	10.4	11.9	12.3	
	軽度(5・6級)	96	35.8	31.8	24.0	24.2	12.3	15.5	16.9	19.3	
	無回答	19	8.9	36.6	10.6	3.3	3.2	8.9	1.4	8.2	

	調査数(人)	自宅や地域で生活するために必要なこと								
		談で地 窓る域 口で が相 あ何 る談 員も こや と相 談	スめ る(外 出ド ヘル パー のサ ービ ス)	る介 護の ため に施 設に 通受 えけ る	こ活 動で できる 仲間 と共 に生 活する こと	どグ ル ー プ ホ ム な る	施 設 で 働 ける こと	そ の 他	特 に ない	無 回 答
全 体	849	10.6	6.1	5.6	4.2	1.4	1.3	7.3	9.7	
年 齢 詳 細	20歳代以下	21	17.1	6.6	11.8	10.5	3.9	-	5.3	-
	30歳代	29	20.0	2.4	9.4	5.9	7.1	3.5	5.9	3.5
	40歳代	49	9.1	3.9	6.5	2.6	5.2	-	5.2	6.5
	50歳代	88	13.9	3.8	2.5	-	3.8	-	6.3	5.1
	60～64歳	90	14.9	6.9	4.6	3.4	1.1	2.3	13.8	4.6
	65～74歳	100	11.0	2.5	6.7	3.7	2.5	1.2	8.0	9.8
	75歳以上	472	8.4	7.6	5.5	5.1	-	1.5	6.5	12.7
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全 体	849	10.6	6.1	5.6	4.2	1.4	1.3	7.3	9.7	
手 帳 等 級	重度(1・2級)	437	9.0	7.9	5.6	5.1	0.9	1.5	4.7	11.2
	中度(3・4級)	297	13.1	4.6	4.5	3.6	1.4	1.5	9.7	5.6
	軽度(5・6級)	96	8.2	3.9	9.6	2.7	3.3	0.4	10.5	12.9
	無回答	19	19.6	-	-	1.8	5.8	-	14.7	24.1

年齢別に詳細にみると、30歳代以下の若年者では「短期入所など緊急時に宿泊できるところがあること」の割合が2割を超えており、他に比べて高い。また、50歳代以下では「仕事があること」の割合が高く、3割を超えている。

手帳等級別にみると、1・2級の重度者では「昼間の介護を頼める人がいること」(21.8%) や「夜間の介護を頼める人がいること」(18.8%) の割合が高い。また、5・6級の軽度者では「仕事があること」(19.3%) の割合が2割と他に比べてやや高い。

調査結果資料 2 (福岡市障がい児・者等実態調査報告書 P169)

自宅や地域で生活するために必要なこと [知的・者]

【図表5-89 年齢(詳細、2区分)別、手帳判定別

自宅や地域で生活するために必要なこと】(%)

	調査数(人)	自宅や地域で生活するために必要なこと								
		の食事が 家事や掃除、 洗濯などを 頼めること	家族と同居 できること	宿泊できる ところ緊急 時に	短期入所な ど	主治医や 医療機関が 近	仕事がある こと	仲間と共同 生活できる こと	グループホ ームなどの 場があるこ と	地域の何 でも相談 できるこ と
全体	474	33.1	28.5	22.8	20.6	19.2	14.7	14.3	12.3	
年齢2区分	64歳以下	439	32.5	28.9	23.5	20.1	20.8	14.8	15.1	11.1
	65歳以上	35	41.4	22.6	13.9	27.1	-	13.4	4.5	27.1
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全体	474	33.1	28.5	22.8	20.6	19.2	14.7	14.3	12.3	
年齢詳細	20歳代以下	152	34.7	26.1	25.0	18.8	27.8	22.2	14.2	13.6
	30歳代	114	35.1	28.8	31.5	18.9	17.1	13.5	11.7	14.4
	40歳代	92	25.6	34.9	19.8	20.9	18.6	8.1	16.3	7.0
	50歳代	53	28.9	23.7	18.4	28.9	18.4	15.8	23.7	2.6
	60~64歳	28	39.1	34.8	4.3	13.0	8.7	-	13.0	13.0
	65~74歳	34	40.9	22.7	13.6	27.3	-	13.6	4.5	27.3
	75歳以上	1	71.4	14.3	28.6	14.3	-	-	-	14.3
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全体	474	33.1	28.5	22.8	20.6	19.2	14.7	14.3	12.3	
手帳判定	重度(A1~A3)	206	33.9	34.4	39.0	21.9	4.0	15.0	8.5	22.0
	中度(B1)	126	33.7	24.5	7.9	20.5	29.5	15.0	15.0	4.9
	軽度(B2)	119	32.1	25.3	11.8	21.6	37.6	13.6	26.4	2.8
	無回答	24	28.0	14.3	15.3	4.9	4.5	16.2	-	14.6

	調査数(人)	自宅や地域で生活するために必要なこと							特 に な い	無 回 答
		施設で働 けること	昼間の 介護を 頼める 人	生活に 必要 な 機 関 が 近 く あ る こ と	ス ー パ ー や 銀 行 な ど の 機 関 が 近 く あ る こ と	介 護 や 訓 練 を 受 け る こ と	ガイ ド ヘル パー が あ る こ と	その 他		
全体	474	11.6	11.0	10.6	9.8	8.4	1.0	6.5	10.4	
年齢2区分	64歳以下	439	12.6	10.0	9.7	10.6	8.7	1.1	7.0	9.8
	65歳以上	35	-	22.8	22.4	0.2	4.9	-	0.2	18.1
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全体	474	11.6	11.0	10.6	9.8	8.4	1.0	6.5	10.4	
年齢詳細	20歳代以下	152	13.6	10.8	10.8	14.8	11.9	1.7	4.0	6.8
	30歳代	114	10.8	8.1	6.3	11.7	8.1	1.8	5.4	9.0
	40歳代	92	14.0	5.8	9.3	4.7	4.7	-	12.8	12.8
	50歳代	53	10.5	13.2	10.5	2.6	7.9	-	10.5	10.5
	60~64歳	28	13.0	21.7	17.4	17.4	8.7	-	4.3	17.4
	65~74歳	34	-	22.7	22.7	-	4.5	-	-	18.2
	75歳以上	1	-	28.6	-	14.3	28.6	-	14.3	14.3
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全体	474	11.6	11.0	10.6	9.8	8.4	1.0	6.5	10.4	
手帳判定	重度(A1~A3)	206	9.1	20.1	6.7	19.4	12.9	0.8	1.7	9.5
	中度(B1)	126	15.8	3.5	13.2	2.9	7.0	0.8	9.2	15.0
	軽度(B2)	119	12.2	2.3	14.3	2.5	2.2	0.7	11.2	7.7
	無回答	24	9.1	15.0	13.2	-	8.5	4.3	10.2	7.0

## 調査結果資料 2 (福岡市障がい児・者等実態調査報告書 P169)

---

回答者全体では「食事や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること」(33.1%)が最も多く、次いで「家族と同居できること」(28.5%)、「短期入所など緊急時に宿泊できるところがあること」(22.8%)となっている。

年齢2区分別にみると、64歳以下では65歳以上に比べて「短期入所など緊急時に宿泊できるところがあること」(23.5%)や「仕事があること」(20.8%)等の割合が高い。一方、65歳以上では「食事や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること」(41.4%)や「夜間の介護を頼める人がいること」(27.1%)、「昼間の介護を頼める人がいること」(22.8%)等の割合が高い。

年齢別に詳細にみると、20歳代以下では他に比べて「仕事があること」(27.8%)の割合が高く、3割弱を占めている。

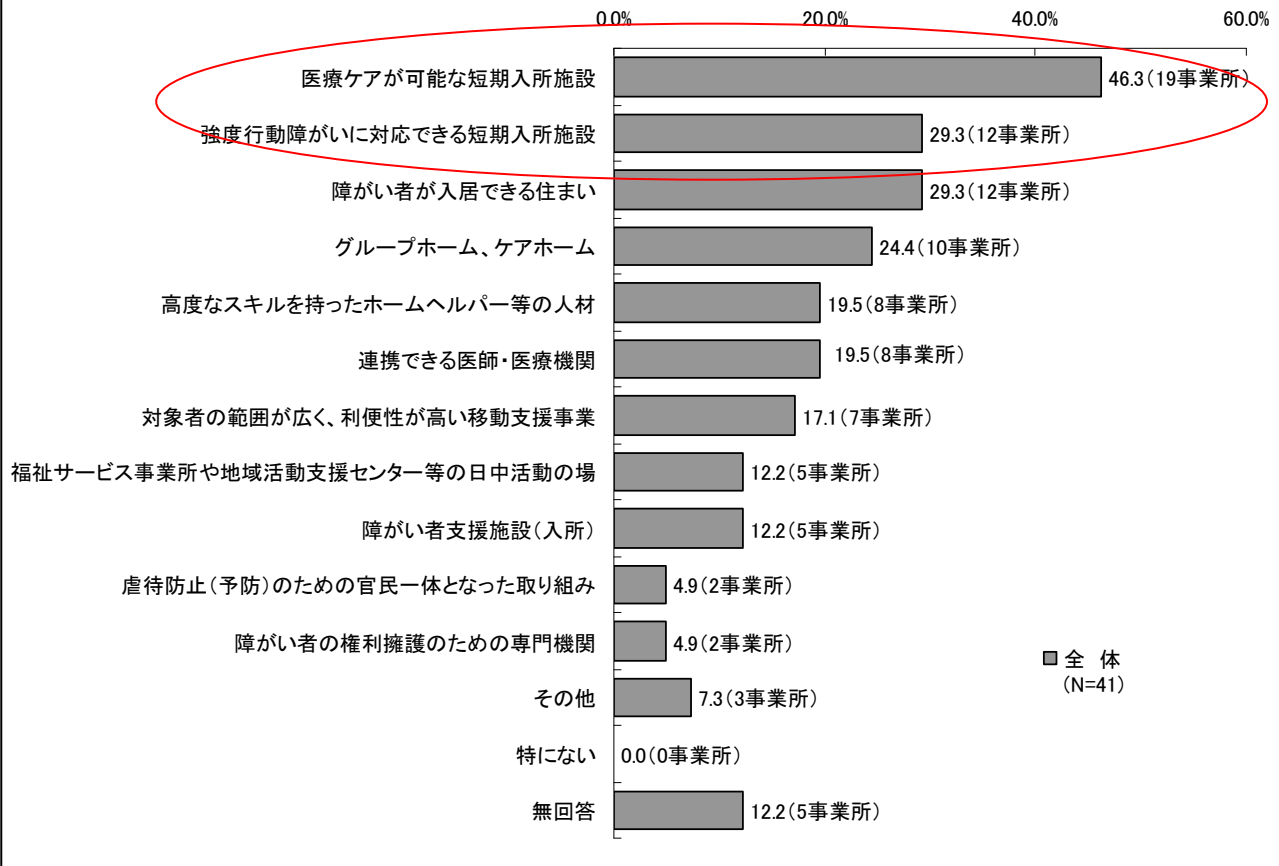
手帳判定別にみると、**A判定の重度者**では他に比べて「短期入所など緊急時に宿泊できるところがあること」(39.0%)や「**夜間の介護を頼める人がいること**」(22.0%)、「介護や訓練を受けるため施設に通えること」(19.4%)等の**割合が高くなっている**。一方、B判定の中度者・軽度者では「仕事があること」の割合が高い。また、B2判定の軽度者では「地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること」(26.4%)の割合が高い。

## 調査結果資料 3 (福岡市障がい児・者等実態調査報告書 P576)

### 相談支援の観点から不足している社会資源〔事業所〕

問 1 3 相談支援の観点から、不足している社会資源は何だと思いますか。(〇は3つまで)

【図表11-15 相談支援の観点から不足している社会資源】

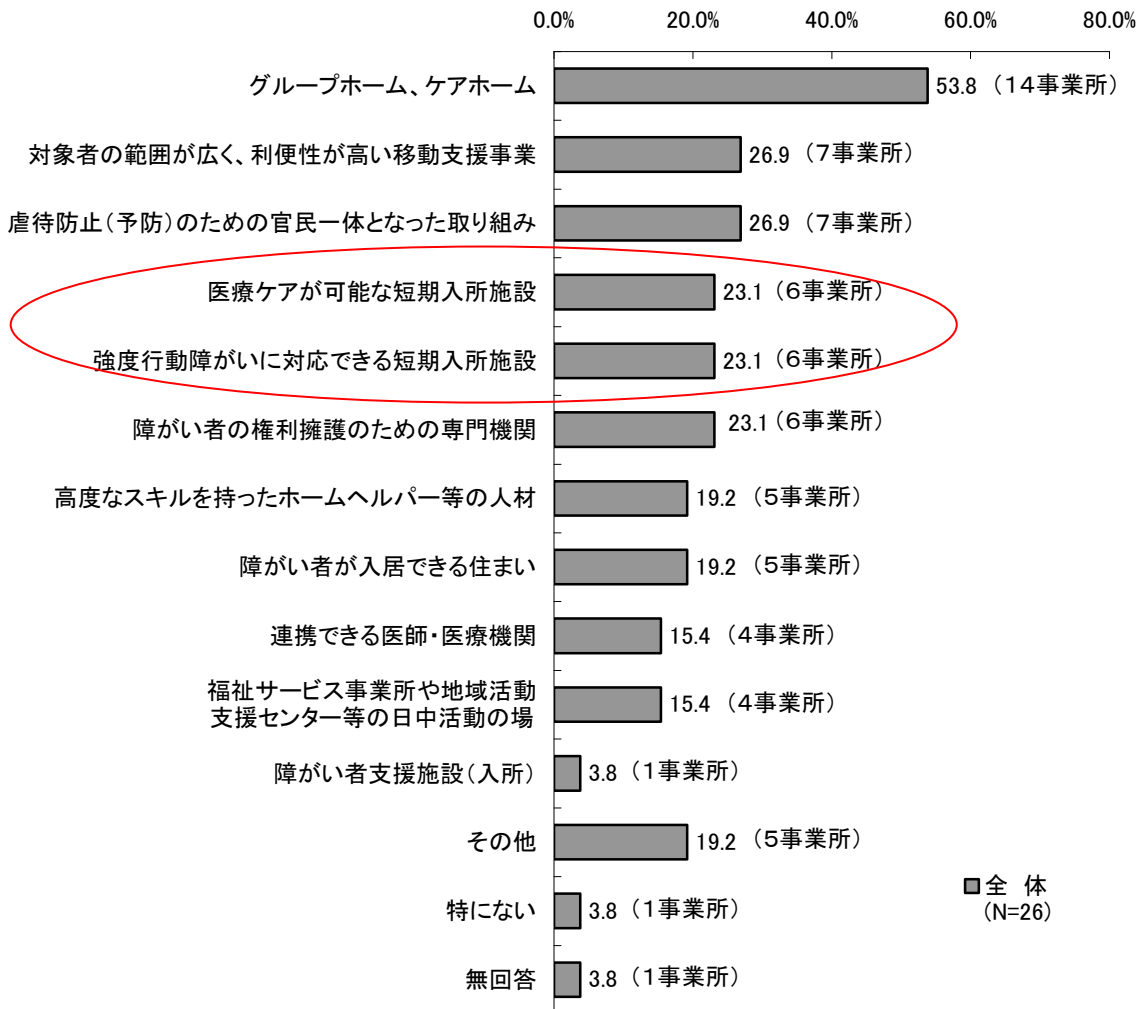


半数弱の事業者が「医療ケアが可能な短期入所施設」(19事業所、46.3%)が不足していると回答しており、次いで「強度行動障がいに対応できる短期入所施設」、「障がい者が入居できる住まい」がそれぞれ12事業所(29.3%)で続いている。

相談支援の観点から不足している社会資源〔事業所〕

問 1 1 相談支援の観点から、不足している社会資源は何だと思いますか。(〇は3つまで)

【図表9-6 相談支援の観点から不足している社会資源】



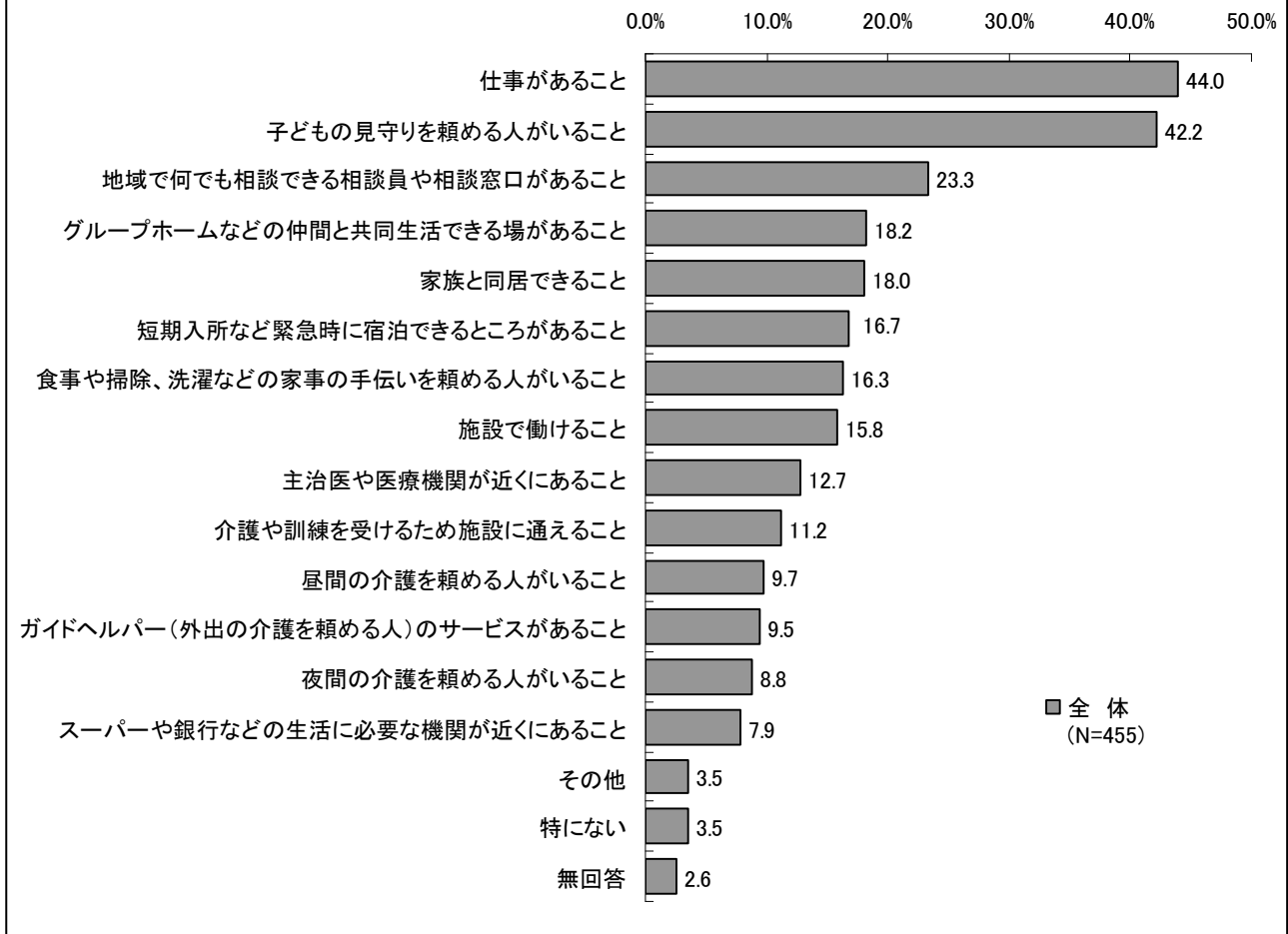
過半数の事業所が「グループホーム、ケアホーム」(14事業所、53.8%)が不足していると回答しており、次いで「対象者の範囲が広く、利便性が高い移動支援事業」と「虐待防止(予防)のための官民一体となった取り組み」がそれぞれ7事業所(26.9%)、「医療ケアが可能な短期入所施設」、「強度行動障がいに対応できる短期入所施設」、「障がい者の権利擁護のための専門機関」がそれぞれ6事業所(23.1%)で続いている。

## 調査結果資料 4 (福岡市障がい児・者等実態調査報告書 P252)

### 自宅や地域で生活するために必要なこと〔児〕

問 3 4 お子さんが、自宅や地域で生活するためには、どのような条件が必要だと思いますか。  
(○は3つまで)

【図表6-87 自宅や地域で生活するために必要なこと】



「仕事があること」(44.0%)が4割強と最も多く、次いで「子どもの見守りを頼める人がいること」(42.2%)、「地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること」(23.3%)となっている。

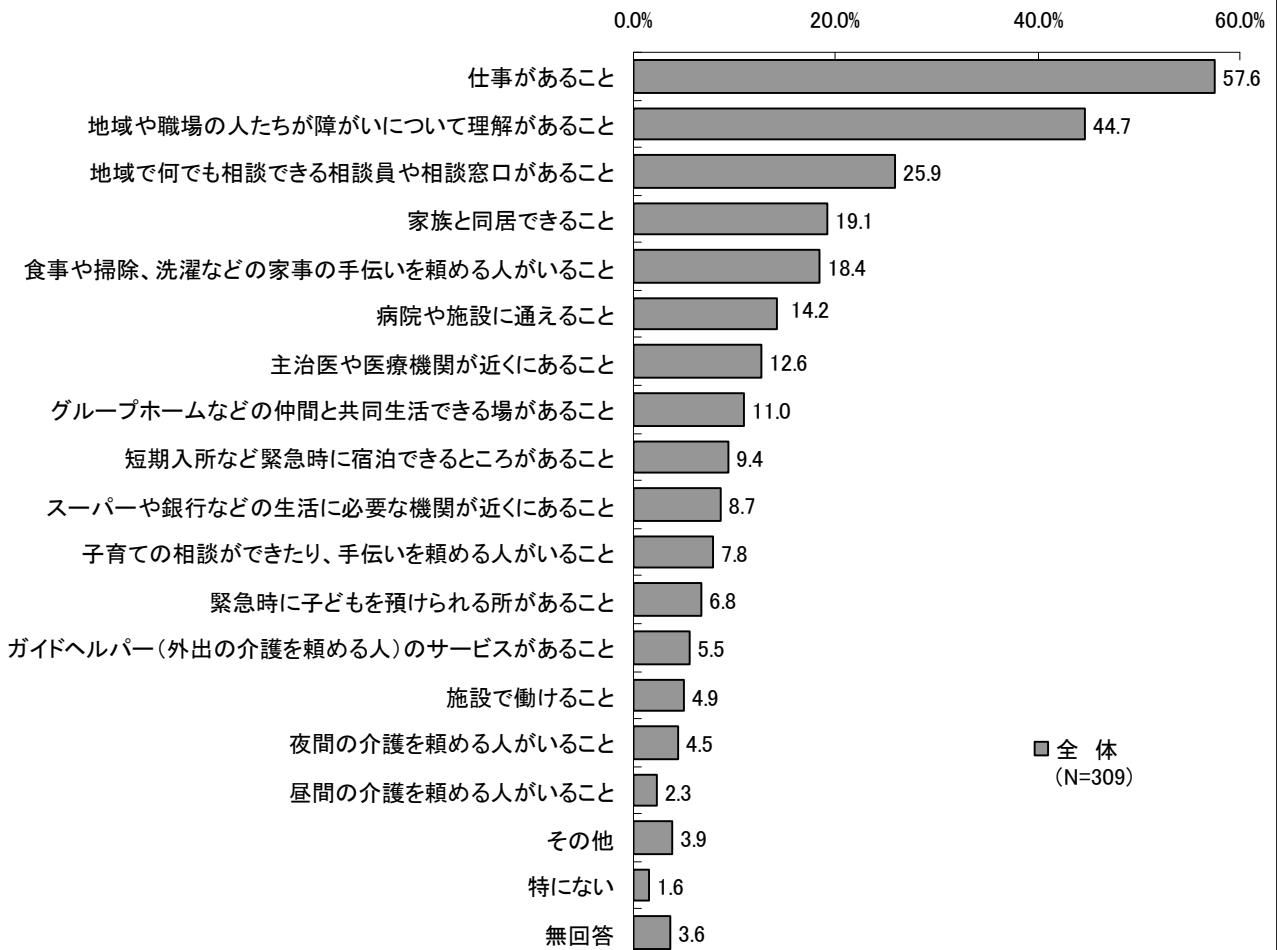
障がいの状況別にみると、身体障がい児では他に比べて「主治医や医療機関が近くにあること」(23.8%)の割合が高く、知的障がい児では「グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること」(23.2%)等の割合が高い。身体障がい児と知的障がい児では「仕事があること」の割合が過半数となっている。また、重複障がい児では他に比べて「短期入所など緊急時に宿泊できる場所があること」(29.5%)や「昼間の介護を頼める人がいること」(23.9%)等の見守りや介護に関する項目の割合が高い。

年齢別にみると、「グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること」は年齢が高いほど割合が高い。

自宅や地域で生活するために必要なこと〔発達〕

問36 自宅や地域で生活するためには、どのような条件が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

【図表9-80 自宅や地域で生活するために必要なこと】



「仕事があること」(57.6%)が6割弱を占めて最も多く、次いで「地域や職場の人たちが障がいについて理解があること」(44.7%)、「地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること」(25.9%)となっている。

年齢別にみると、「グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること」、「地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること」等は18歳～40歳代で他の年代に比べて割合が高くなっている。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳を所持している人（知的障がいがある人）は、所持していない人（知的障がいを伴わない人）に比べて、「グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること」(21.6%)や「短期入所など緊急時に宿泊できる場所があること」(20.3%)等の割合が高い一方、所持していない人（知的障がいを伴わない人）では「仕事があること」(65.5%)等の割合が高くなっている。

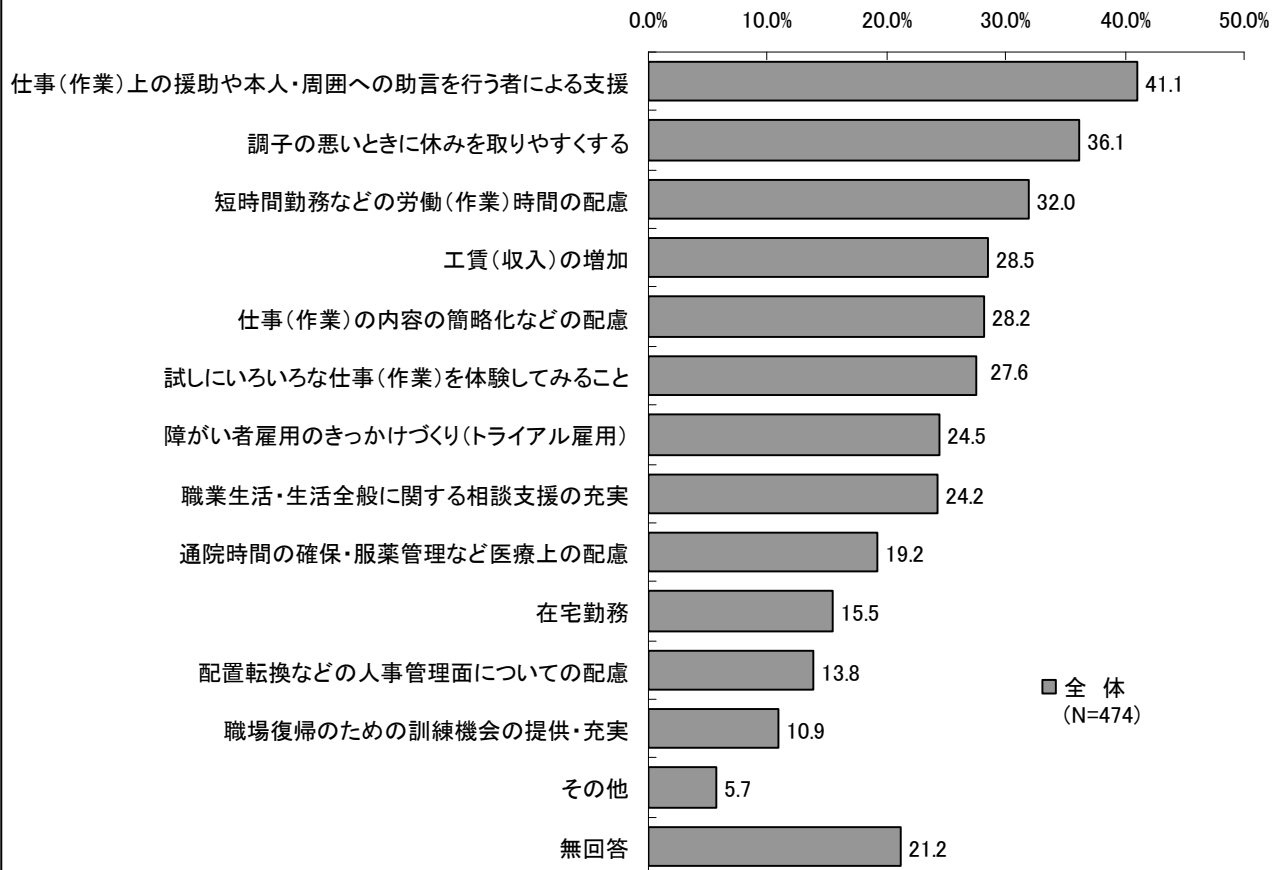
発達障がいの診断別にみると、アスペルガー症候群のみの人では「主治医や医療機関が近くにあること」(23.1%)、自閉症のみの人では「グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること」(33.3%)の割合がそれぞれ他に比べて高い。

## 調査結果資料6（福岡市障がい児・者等実態調査報告書 P152）

障がい者の就労支援として必要なこと〔知的・者〕

問27 どのような働き方や制度があれば障がいのある人が働きやすいと思いますか。  
（○はあてはまるものすべて）

【図表5-66 障がい者の就労支援として必要なこと】



「仕事(作業)上の援助や本人・周囲への助言を行う者による支援」(41.1%)が4割強を占めて最も多く、次いで「調子の悪いときに休みを取りやすくする」(36.1%)、「短時間勤務などの労働(作業)時間の配慮」(32.0%)等が3割台で続いている。

年齢別に詳細にみると、20歳代以下では他に比べて「仕事(作業)上の援助や本人・周囲への助言を行う者による支援」(63.1%)や「試しにいろいろな仕事(作業)を体験してみることに」(42.0%)、「工賃(収入)の増加」(39.8%)、「仕事(作業)の内容の簡略化などの配慮」(39.2%)等、多くの項目で割合が高くなっている。

手帳判定別にみると、A判定の重度者では他に比べて「短時間勤務などの労働(作業)時間の配慮」(38.8%)、「通院時間の確保・服薬管理など医療上の配慮」(25.9%)等の割合が高くなっている。

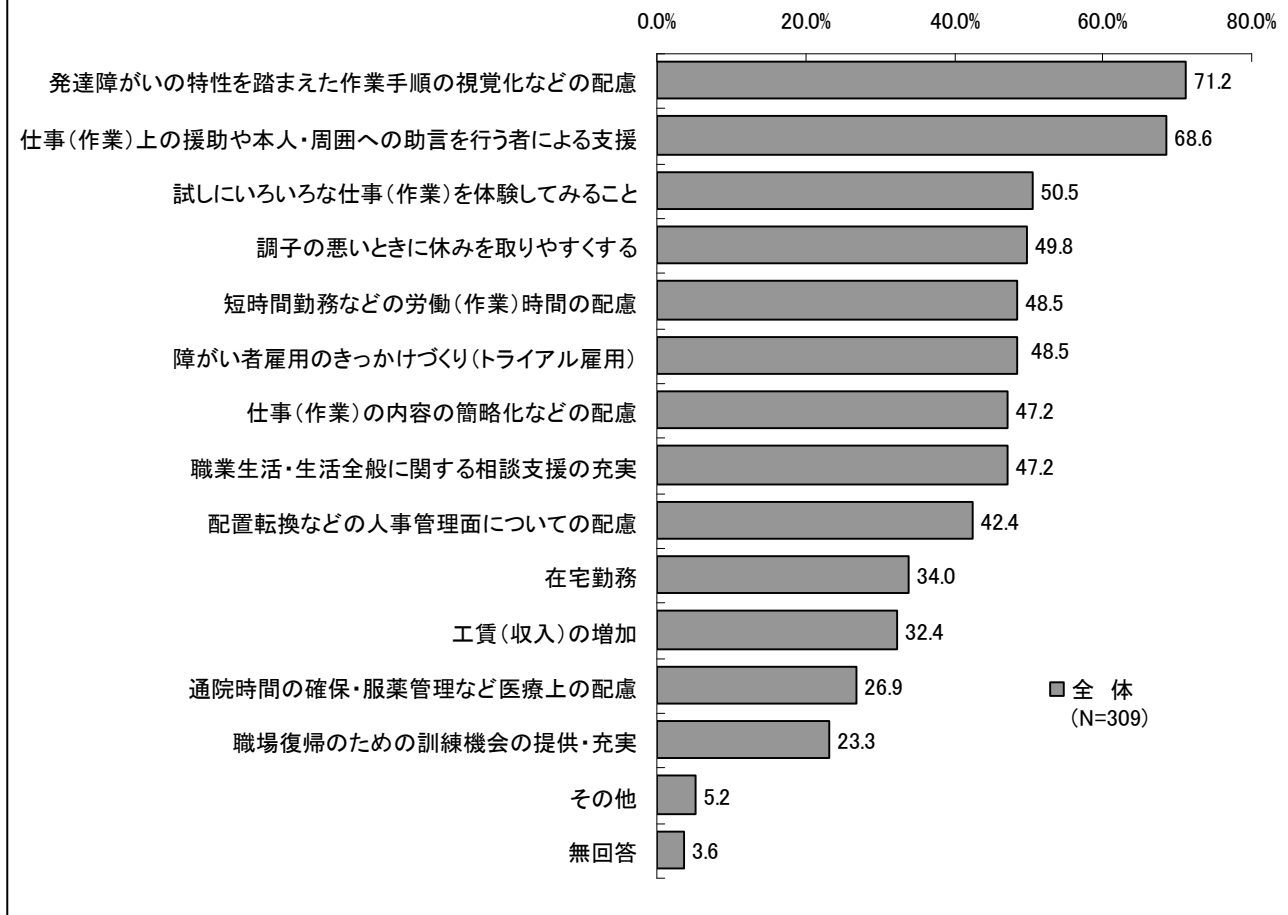


## 調査結果資料 7 (福岡市障がい児・者等実態調査報告書 P452)

### 発達障がい者の就労支援として必要なこと〔発達〕

問 3 2 どのような働き方や制度があれば発達障がいのある人が働きやすいと思いますか。  
(〇はあてはまるものすべて)

【図表9-70 発達障がい者の就労支援として必要なこと】



「発達障がいの特性を踏まえた作業手順の視覚化などの配慮」(71.2%)と「仕事(作業)上の援助や本人・周囲への助言を行う者による支援」(68.6%)が7割前後と多く、次いで「試しにいろいろな仕事(作業)を体験してみることに」(50.5%)、「調子の悪いときに休みを取りやすくする」(49.8%)、「短時間勤務などの労働(作業)時間の配慮」と「障がい者雇用のきっかけづくり(トライアル雇用)」(それぞれ48.5%)が半数前後で続いている。

年齢別にみると、15歳以上では他の年代に比べて「通院時間の確保・服薬管理など医療上の配慮」の割合が高い。

発達障がいの診断別にみると、発達障がいの重複者では「仕事(作業)の内容の簡略化などの配慮」(58.0%)等の割合が高い。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、二次的な問題がある人はない人に比べて「在宅勤務」(42.6%)や「通院時間の確保・服薬管理など医療上の配慮」(36.1%)の割合が高い。

## 調査結果資料 8 (福岡市障がい児・者等実態調査報告書)

### 地域から受けたい支援〔全〕

【身体 P98, 知的 P183, 児 P269, 精神 (通院) P403, 発達 P477, 難病 P554 の上位 5 位を集計】

	身体障がい者 (N=849)	知的障がい者 (N=474)	身体・知的障がい児 (N=455)	精神障がい者(通院) (N=1038)	発達障がい児・者 (N=309)	難病患者 (N=504)
1位	普段から定期的に 声かけなどをする (見守る) (23.5%)	普段から定期的に 声かけなどをする (見守る) (29.1%)	普段から定期的に 声かけなどをする (見守る) (48.6%)	相談相手になる (26.5%)	普段から定期的に 声かけなどをする (見守る) (36.2%)	普段から定期的に 声かけなどをする (見守る) (22.8%)
2位	世間話をして 一緒に過ごす (16.3%)	地域の行事やイベントに 一緒に参加する (24.7%)	地域の行事やイベントに 一緒に参加する (35.8%)	世間話をして 一緒に過ごす (22.6%)	趣味やスポーツ活動を 一緒にする (28.5%)	趣味やスポーツ活動を 一緒にする (19.8%)
3位	趣味やスポーツ活動を 一緒にする (13.8%)	外出時に付き添う (19.4%)	外出時に付き添う (25.7%)	普段から定期的に 声かけなどをする (見守る) (20.0%)	地域の行事や イベントに 一緒に参加する (27.2%)	世間話をして 一緒に過ごす (18.5%)
4位	簡単な身の回りの 世話をする (12.8%)	趣味やスポーツ活動を 一緒にする (18.8%)	趣味やスポーツ活動を 一緒にする (23.5%)	趣味やスポーツ活動を 一緒にする (20.0%)	相談相手になる (22.7%)	地域の行事や イベントに 一緒に参加する (17.5%)
5位	相談相手になる (12.6%)	世間話をして 一緒に過ごす (17.2%)	相談相手になる (14.5%)	地域の行事やイベントに 一緒に参加する (15.6%)	世間話をして 一緒に過ごす (21.0%)	相談相手になる (16.3%)

すべての障がいにおいて、地域から受けたい支援として「普段から定期的に声かけなどをする（見守る）」を望む回答が2割以上ある。

## 調査結果資料 9 (福岡市障がい児・者等実態調査報告書)

### 福岡市の福祉施策情報の入手先〔全〕

【身体 P94, 知的 P179, 児 P263, 精神 (通院) P399, 発達 P474, 難病 P551 の上位 5 位を集計】

	身体障がい者 (N=849)	知的障がい者 (N=474)	身体・知的障がい児 (N=455)	精神障がい者(通院) (N=1038)	発達障がい児・者 (N=309)	難病患者 (N=504)
1位	市政だより (63.2%)	市政だより (50.4%)	市政だより (65.1%)	市政だより (46.5%)	市政だより (57.9%)	市政だより (67.1%)
2位	テレビ・ラジオ (29.3%)	福祉事務所 (区役所の福祉・介護保険課) (23.6%)	福祉事務所 (区役所の福祉・介護保険課) (23.5%)	テレビ・ラジオ (27.1%)	ゆうゆうセンター (36.2%)	新聞 (29.4%)
3位	新聞 (28.4%)	テレビ・ラジオ (20.6%)	あいあいセンター 西部・東部療育センター (22.6%)	新聞 (18.9%)	ホームページ (23.3%)	テレビ・ラジオ (24.0%)
4位	福祉事務所 (区役所の福祉・介護保険課) (21.1%)	施設 (19.0%)	ホームページ (16.7%)	ホームページ (16.5%)	新聞 (18.8%)	福祉事務所 (区役所の福祉・介護保険課) (13.7%)
5位	民生委員・児童委員 (8.1%)	新聞 (16.9%)	新聞 (12.1%)	区役所(健康課など) (14.0%)	テレビ・ラジオ (18.4%)	ホームページ (12.9%)

すべての障がいにおいて、福岡市の福祉施策情報については5割程度が「市政だより」を手掛かりとしている。

## 調査結果資料 10（福岡市障がい児・者等実態調査報告書）

### 障がい者の人権に関して問題があると思うこと〔全〕

【身体 P110, 知的 P194, 児 P278, 精神（通院） P411, 発達 P485, 難病 P561 の上位 5 位を集計】

	身体障がい者 (N=175)	知的障がい者 (N=267)	身体・知的障がい児 (N=280)	精神障がい者(通院) (N=345)	発達障がい児・者 (N=197)	難病患者 (N=89)
1位	道路の段差や建物の階段など外出先での不便が多いこと(25.3%)	人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと(29.9%)	差別的な言動を受けること(45.1%)	差別的な言動を受けること(31.4%)	発達障がいの特性から生じる困難さに対し、配慮がなされないこと(67.3%)	道路の段差や建物の階段など外出先での不便が多いこと(23.0%)
2位	人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと(15.0%)	差別的な言動を受けること(29.3%)	人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと(41.3%)	障がい者の意見や行動が尊重されないこと(28.0%)	差別的な言動を受けること(32.7%)	人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと(19.2%)
3位	差別的な言動を受けること(13.7%)	働ける場所や能力を發揮する機会が少ないこと(19.2%)	働ける場所や能力を發揮する機会が少ないこと(30.8%)	人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと(22.6%)	働ける場所や能力を發揮する機会が少ないこと(29.8%)	働ける場所や能力を發揮する機会が少ないこと(16.7%)
4位	聴覚・視覚障がい者などへ必要な情報を伝える配慮が足りないこと(10.8%)	障がい者の意見や行動が尊重されないこと(14.8%)	学校の受け入れ体制が不十分なこと(21.8%)	働ける場所や能力を發揮する機会が少ないこと(22.4%)	学校における一人ひとりの特性に応じた支援体制が不十分なこと(29.4%)	差別的な言動を受けること(15.3%)
5位	障がい者の意見や行動が尊重されないこと(10.6%)	道路の段差や建物の階段など外出先での不便が多いこと(12.3%)	病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受けること(16.7%)	就職・職場で不利な扱いを受けること(16.2%)	人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと(28.5%)	障がい者の意見や行動が尊重されないこと(12.9%)

すべての障がいに共通して「人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと」や「差別的な言動を受けること」等が上位 5 位以内にあがっている。

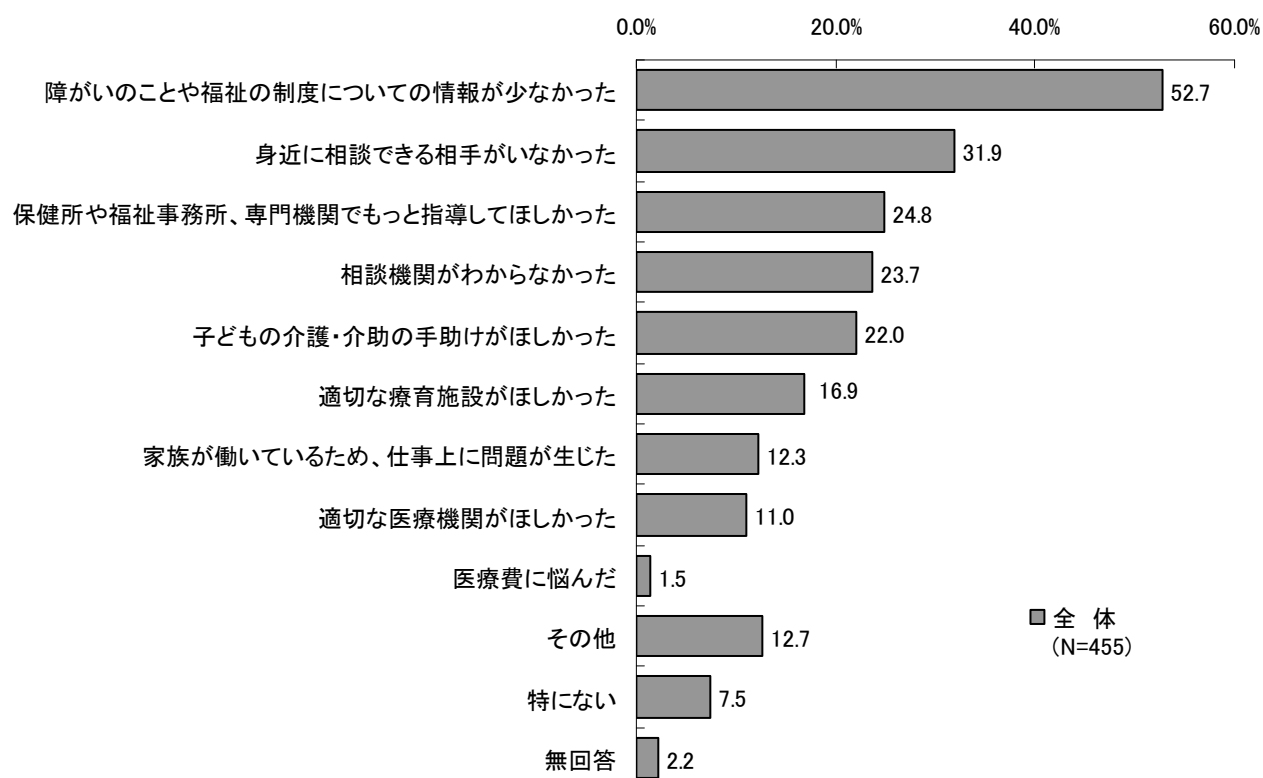
発達障がい者では「発達障がいの特性から生じる困難さに対し、配慮がなされないこと」の割合が 7 割弱と高く、1 位となっている。

## 調査結果資料 1 1 (福岡市障がい児・者等実態調査報告書 P211)

### 障がい者の診断・判定を受けた頃の苦勞、悩み、不安〔児〕

問 1 2 お子さんの障がいの状況について、診断・判定を受けた頃、ご家族の皆さんには、どんな苦勞、悩み、不安がありましたか。(○は3つまで)

【図表6-24 障がいの診断・判定を受けた頃の苦勞、悩み、不安】



「障がいのことや福祉の制度についての情報が少なかった」(52.7%)が5割を超えて最も多く、次いで「身近に相談できる相手がいなかった」(31.9%)、「保健所や福祉事務所、専門機関でもっと指導してほしい」(24.8%)、「相談機関がわからなかった」(23.7%)等となっている。

障がいの状況別にみると、各障がいとも「障がいのことや福祉の制度についての情報が少なかった」の割合が最も高いが、身体障がい児(身体障がいのみ)では「家族が働いているため、仕事上に問題が生じた」(23.8%)の割合が高くなっている。

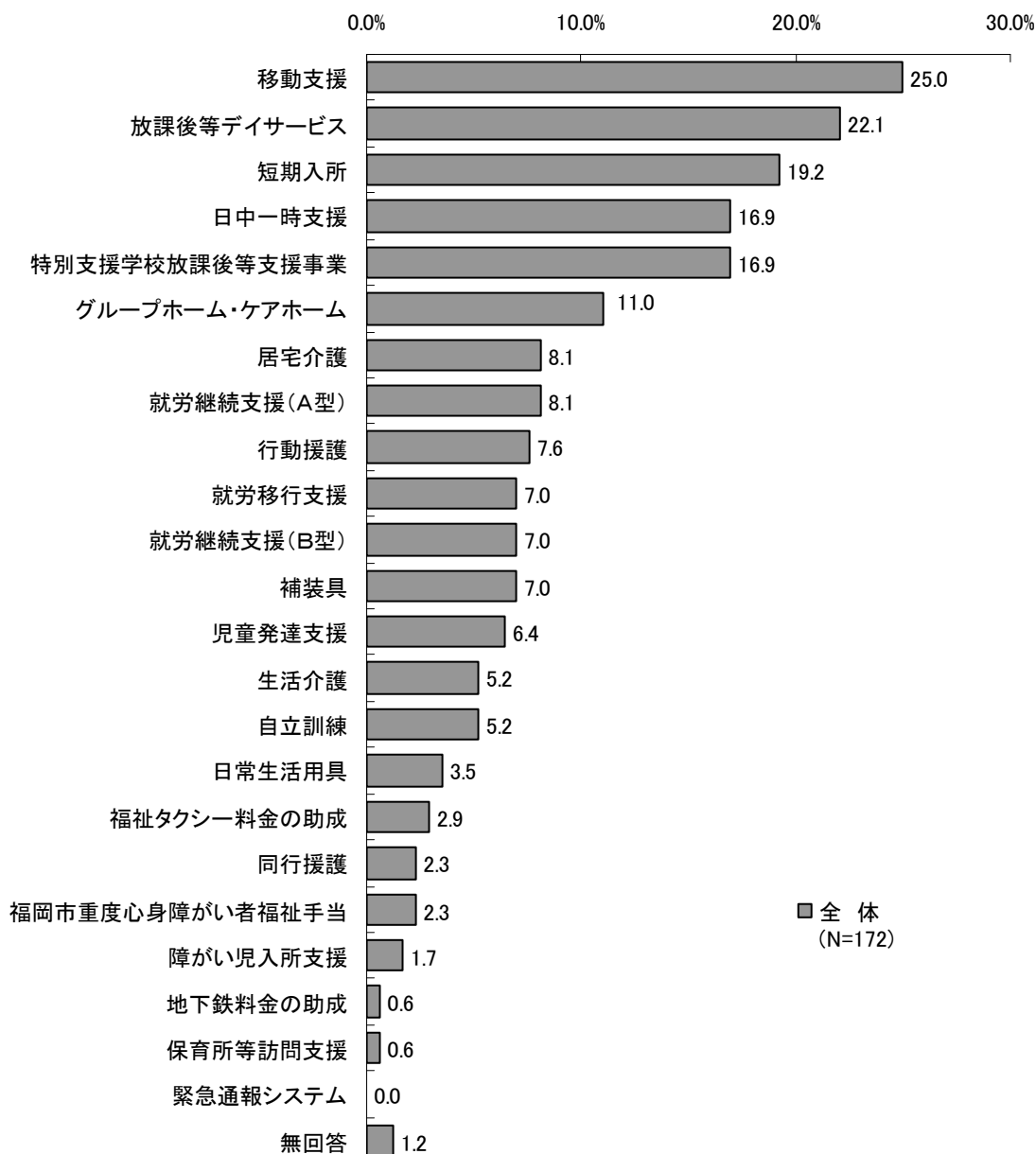
## 調査結果資料 1 2 (福岡市障がい児・者等実態調査報告書 P245)

### 対象・範囲の拡大をしてほしい福祉サービス〔児〕

[問30で「1」を選ばれた方におたずねします]

問30-1 それほどの福祉サービス・事業ですか。優先度が高いと思うものを3つまで選んでください。(事業番号は1~23の数字を記入してください)

【図表6-78 対象・範囲の拡大をしてほしい福祉サービス】



対象・範囲の拡大をしてほしい福祉サービスとしては「**移動支援**」(25.0%)が最も多く、次いで「**放課後デイサービス**」(22.1%)、「**短期入所**」(19.2%)、「日中一時支援」、「特別支援学校放課後等支援事業」(それぞれ16.9%)となっている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では「補装具」(28.0%)、重複障がい児では「短期入所」(37.8%)の割合がそれぞれ他の障がい児に比べて高くなっている。

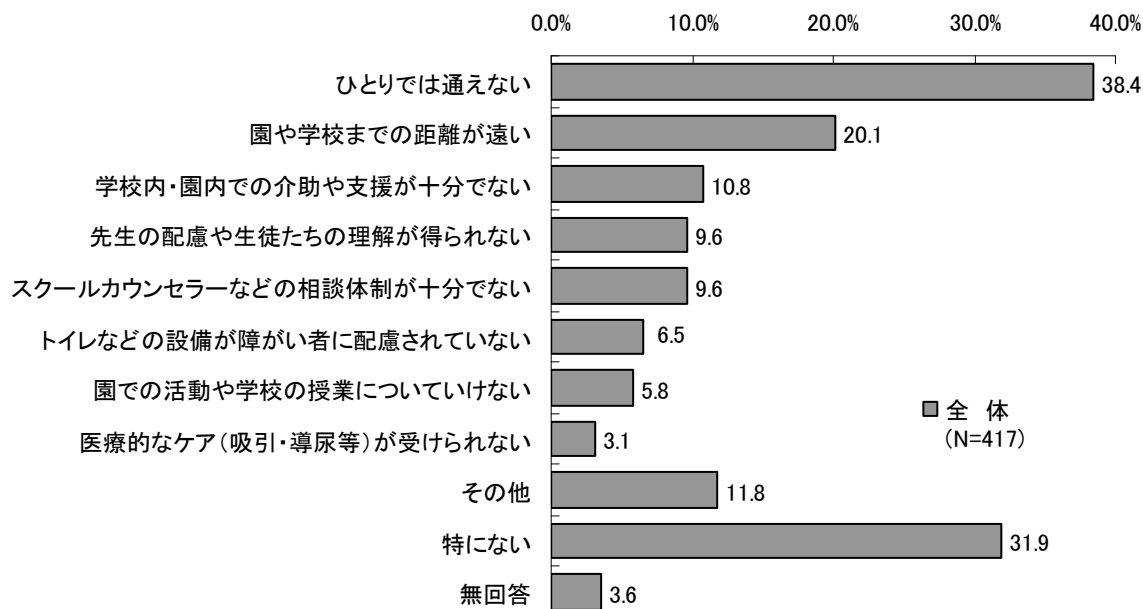
年齢別にみると、0~8歳では「日中一時支援」の割合が3割を超えて高くなっている。また、12歳以上では「グループホーム・ケアホーム」や「移動支援」の割合が高い。さらに、12~14歳では、「就労継続支援(A・B型)」(18.6%)や「就労移行支援」(16.3%)といった就労支援関係の項目の割合が高くなっている。

通園・通学で困っていること〔児〕

[問 1 5 で「1」～「1 5」を選ばれた方におたずねします]

問 1 5 - 1 通園・通学で困っていることがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表6-35 通園・通学で困っていること】



通園・通学中の人(417人)に、通園・通学で困っていることをたずねたところ、「ひとりでは通えない」(38.4%)が4割弱と最も多く、これに「園や学校までの距離が遠い」(20.1%)が続いており、通園・通学先までのアクセスに関するものが上位にあがっている。これに「学校内・園内での介助や支援が十分でない」(10.8%)が1割台が続いている。

また、「特にない」(31.9%)も3割強を占めている。

障がいの状況別にみると、重複障がい児では他に比べて「ひとりでは通えない」(45.6%)や「園や学校までの距離が遠い」(26.6%)等の割合が高い。

通園・通学先別にみると、特別支援学校小・中学部では「ひとりでは通えない」(61.9%)や「園や学校までの距離が遠い」(31.0%)が他に比べて高い。

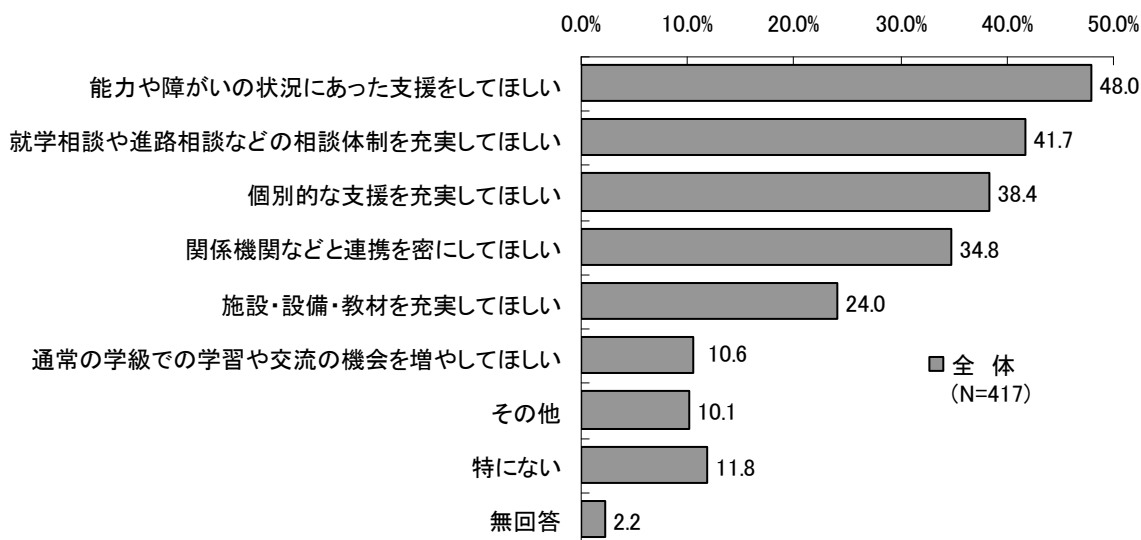
## 調査結果資料 1 4 (福岡市障がい児・者等実態調査報告書 P219)

### 通園・通学先に望むこと〔児〕

[問15で「1」～「15」を選ばれた方におたずねします]

問15-2 通園・通学先にどのようなことを望みますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-37 通園・通学先に望むこと】



通園・通学中の人(417人)に、通園・通学先に望むことをたずねたところ、「**能力や障がいの状況にあった支援をしてほしい**」(48.0%)が最も多く、これに「**就学相談や進路相談などの相談体制を充実してほしい**」(41.7%)や「**個別的な支援を充実してほしい**」(38.4%)が4割前後で続き、次いで「**関係機関などと連携を密にしてほしい**」(34.8%)となっている。

通園・通学先別にみると、特別支援学校高等部では「**就学相談や進路相談などの相談体制を充実してほしい**」(54.3%)、小・中学校(特別支援学級)では「**施設・設備・教材を充実してほしい**」(33.6%)の割合がそれぞれ他に比べて高い。